

教育学部 特任講師  
博士（数理学） 中條 大介

このたび、野口生也先生による教養基礎演習Ⅲの授業を見学させていただきましたが、いかに今回、新たに気づかせていただいた点などを幾つか記させていただきます。

まず、これまでに何回か見学させていただいた野口先生の講義と同様、テキストの解説において説明不足だと感じられた箇所および補足説明が必要だと思われる箇所に関しては、あらかじめ資料の中に赤い文字で小さく書き込んでおられましたが、大変素晴らしいアイデアだと思いました。野口先生独自の手法だと思われませんが、大変教育効果が高く、大いに学生の理解の手助けになりますので、機会があれば自分の講義でも試してみたいと思いました。

また、問題を解かせる前に「直線の傾きおよび切片」といった基本的な概念や、「2次方程式の解と係数の関係」といった重要な公式を軽く説明してから、各自で考える時間を確保されていましたが、これにより、必要な予備知識が備わっていない学生を決して見捨てることなく、授業時間を最大限に有効活用してもらい、という高い意識を垣間見させていただくことができましたので、この点に関しても是非とも見習わせていただきたいと思います。

そして総長先生による、「まずは開設の部分を朗読させていから、必要に応じて補足説明などを行う、という順序で進行したほうがよい、そうすることにより、最初の段階で先生が理解できているかどうかを瞬時にして判明するから」という指摘がありましたので、このことを深く心に刻んで、これからの講義に備えたいと思わせて頂きました。特に、他のいくつかの見学授業においても同様のことが指摘されておられたことから、講義をしている最中にうっかり犯してしまうミスだということが推察されますので、これまでに加え一層、気をつけていきたいとの思いを改めて強くさせていただきました。

その他にも類題を解かせる際、制限時間を過ぎてもまだ解き終わっていない学生が散見された場合は、躊躇せず時間を延長されていたことから、学生主体の授業を常に心がけていらっしゃる様子が窺われました。さらに、途中式もかかせ、答え合わせの際に、その式を発表させることにより、しっかりと理解できているかどうかチェックすることも忘れずに行っておられたので、完全に学生が理解できるまで面倒をみる、という姿勢が強くこちらにも伝わってきました。これを受け、思わず（普段から自分も心がけているとはいえ）改めて襟を正す思いをさせていただきました。

総じて、最後の確認テストの前にも再度、使用する公式などに関して端的に振り返られるなどして、随所に工夫のあとを確認することができる、大変素晴らしい講義でした。

このような講義を見学させていただく、大変有意義な機会を与えて下さい、誠に有難うございました。